

HCV母子感染のprospective study

白木和夫

長田郁夫 谷本 要 飯塚俊之

要約：C100-3抗体陽性の母親から出生した児13例についてprospective studyを行った。肝機能障害は2例に認められたが、このうち1例は生後2～26か月まで持続し、母児ともHCV-RNAが検出された（いずれもtype II）。他の1例は母親のHCV-RNAは陽性であったが児は陰性であった。症例数、経過観察期間がまだ充分ではなく今後の検討を要するが、HCVの母子感染の頻度はHBよりは低いことが示唆された。

見出し語：HCV，母子感染

【対象と方法】

C100-3抗体陽性の12例の母親から出生した児13例（姉妹1例を含む）について1か月～27か月prospective studyを行った。対象13例について肝機能とC100-3抗体を測定し、またこのうち4例においては母児のHCV-RNAの検出とsubtype、ウイルス量の検討を行った。HCV-RNAの検出、subtypeの同呈はOkamotoらの方法で行い、またウイルス量は血清の10倍希釈系列における検出限界により半定量を行った。

【結果】

C100-3抗体は移行抗体と考えられるものは1か月時にはすでに消失している症例から長い症例で

は9か月まで持続した。肝機能障害は2例に認められた。

このうち1例は生後2か月から9か月まで肝機能障害が認められたが、9か月から11か月までは正常化した。この症例のC100-3抗体は臍帯血では陽性であったが生後2か月には陰性で、その後も陰性が続いている。また母親のHCV-RNAはtype IIでウイルス量は $\geq +4$ であったが、児は11か月の時点でHCV-RNAは陰性であった（表のcase3）。

また他の1例は母親は輸血後C型慢性肝炎であるが、児は生後2か月より肝機能障害が認められ生後26か月まで持続している。C100-3抗体は一度消失した後生後5か月より再度OD値2.5以上が持

続している。またC100-3抗体価は生後2 か月は2前後であったが、生後8 か月以降100 以上が持続しており、児自身が産生したものと考えられた。HCV-RNA は母児とも検出され、いずれもtype IIであった。またウイルス量は母親、児とも $\geq +4$ であった(表のcase1、図)。

母親のHCV-RNA は4 例のうち4 例とも検出され、case1 はII型であったが、他はIII型であった。児はcase1 にのみ検出されたが、subtype はII型で母親と一致した。

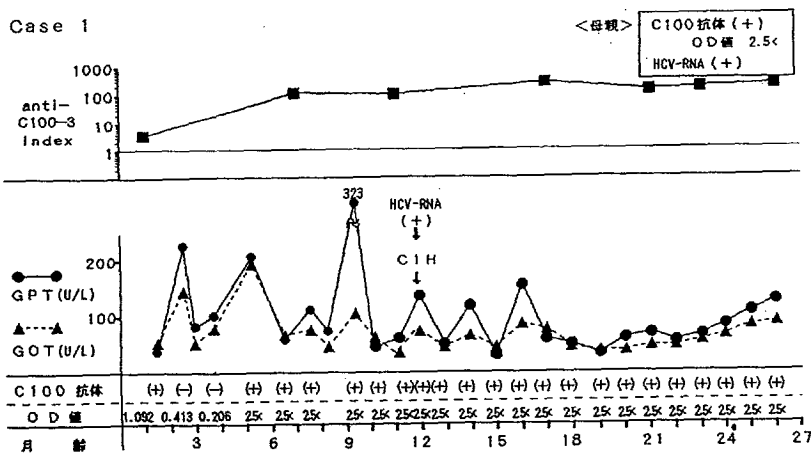
【考案】

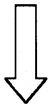
C100-3抗体陽性の母親から出生した児について肝機能障害が持続し、C100-3抗体陽性が持続している1 例は母子感染により慢性肝炎を発症した症例と考えられる。case3 については肝機能障害の原因は明かではないが、他の時点においてHCV-RNA を検討する予定である。

現時点では症例数、経過観察期間がまだ充分ではなく今後の検討を要するが、HCV の母子感染の頻度はHBよりは低いことが示唆された。

母児のHCV-RNA subtype

case	母親	児
1	II ($\geq +4$)	II ($\geq +4$)
2	III ($\geq +4$)	(-)
3	III ($\geq +4$)	(-)
8	III (+2)	(-)





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:C100-3 抗体陽性の母親から出生した児 13 例について prospective study を行った。肝機能障害は 2 例に認められたが、このうち 1 例は生後 2~26 か月まで持続し、母児とも HCV-RNA が検出された(いずれも type 1)。他の 1 例は母親の HCV-RNA は陽性であったが児は陰性であった。症例数、経過観察期間がまだ充分ではなく今後の検討を要するが、HCV の母子感染の頻度は HB よりは低いことが示唆された。